

5月上旬までは気温が高く、雨が多い予報

- 4月27日発表の1ヶ月予報では、気温は5月上旬までは高く、中旬は平年並み。雨は平年並みが多く、日射量は少ない確率がやや高い予報となっています。高温条件下で苗が徒長したり、苗焼けを起こさないよう温度管理に注意してください。

育苗後期・硬化期のポイント

温度管理 ハウスやトンネル内の温度は、こまめに確認を

- ハウスやトンネル内の温度は、日中20～25℃、夜間10～15℃を目安に換気や保温に努めましょう。特に晴天時は、気温が上がりやすいので徒長しないよう換気しましょう。また朝低温が予想される場合は、保温資材を利用して保温に努めてください。
- 田植1週間前からは、霜の心配がない限り育苗ハウスやトンネルを開放して苗を外気に慣らすようにしましょう。

水管理 かん水は、朝1回が基本

- かん水は、十分な水量を朝1回が基本です。夕方のかん水は、床土の温度を下げ、過湿・カビの原因になるので避けましょう。
- プール育苗は、1. 5葉期に床土の高さまで入水し、ハウスを開放。2葉期以降は箱上1cmが目安です。



追肥 苗の葉齢を確認し、適期に追肥を

- 稚苗は育苗期間が短いので基肥だけで充分ですが、中苗は追肥したほうが良苗ができます。方法は、第2葉展開時と第3葉展開時にそれぞれ1箱当たり硫酸5gを500ccの水に溶かしてジョウロで散布してください。
- 床土に緩効性肥料(育苗一発肥料など)を使用した場合は追肥は必要ありません。

本田準備【土づくり・耕起・基肥】

- 土づくり肥料(ケイカル・ヨウリン等)を施用して、気象変動や病害虫に強い稲を作りましょう。
- トラクターの馬力に応じたスピードで耕起し、耕起深15cmを確保して根張りの良い稲を作りましょう。
- 基肥は耕起後に施用して、肥料成分が作土層の上部に分布するようにしましょう。
- 基肥(速効性肥料)は、流亡しやすいので代かき直前に施用しましょう。また、基肥一発肥料(緩効性肥料)は、田植10日前以内に施用しましょう。

